

貿易陶磁器

大陸から輸入された陶磁器の総称です。そのほとんどが中国製で、日本各地で出土しています。

君津市内では白磁や青磁を中心として、青白磁、二彩陶器などが出土しています。そのほとんどが破片のみで量も少ないため、領主や名主などの限られた人が入手できたと考えられます。

白磁

白素地に白色の長石系の釉薬をかけたもので、白色や黄白色に焼きあがります。平安時代後半から日本に多く輸入されています。君津市内では、福建省周辺の窯で生産されたものが主に出土します。



碗
外箕輪遺跡II

青磁

鉄分を含んだ釉薬をかけて還元状態で焼き上げ、青緑色に発色したものです。平安時代末期から日本に多く輸入されています。君津市内では、浙江省の龍泉窯で生産されたものが主に出土します。



龍泉窯・輪花碗
外箕輪遺跡I

国産陶器

地元で生産・消費されたものの他に、日本各地で生産されて広域に流通した陶器もあります。君津市内では、常滑、瀬戸・美濃、渥美などで生産されたものが出土します。

常滑産

12世紀はじめから、愛知県常滑市周辺を中心として、知多半島で生産されています。

片口鉢
三直中郷遺跡



瀬戸・
美濃産

12世紀末から愛知県瀬戸市周辺で生産され、釉薬が施されているのが特徴です。15世紀になると美濃でも生産がはじまり、瀬戸・美濃焼とも称されます。



灰釉花瓶
三直中郷遺跡

小糸川周辺の鎌倉・室町時代
～みふねの里保育園の下に遺跡があった!～

君津市立中央図書館 令和6年8月20日～令和6年9月1日

写真・資料 千葉県教育委員会 君津市教育委員会
地図出版 国土地理院発行地形図「鹿野山」25,000分の1
編集・発行 君津市教育委員会生涯学習文化課
令和6年8月19日発行

令和6年度君津市内出土遺物公開展

小糸川周辺の 鎌倉・室町時代

～みふねの里保育園の下に遺跡があった!～



写真:みふねの里保育園建設前の発掘調査風景 右上君津市役所

小系川周辺の鎌倉・室町時代のムラ

これまでの発掘調査によって、富吉遺跡、上湯江遺跡、常代遺跡、郡遺跡、外箕輪遺跡、泉遺跡、三直中郷遺跡から掘立柱建物跡(以下、建物跡)や井戸などが見つかっています。また、国産陶器のほか大陸から輸入された貿易陶磁器、古銭などが出土しています。

検出された遺構や遺物から、それぞれの遺跡が同じようなムラではなく、異なった性格をもっていたことがわかっています。

ほったてばしらたてものあと



農民層のムラ (泉遺跡Ⅰ・Ⅱ)

建物跡の面積が30㎡以下と小さく、遺物の出土量も少ないことから、農民層のムラであったと考えます。

また、何度も同じ場所で建物の建て替えが見られることから、馬登川の近くにあったこのムラは、川の流路の影響を受けて立地に制約があったと考えられます。

領主層の居館 (外箕輪遺跡Ⅰ)

建物跡の面積が60～70㎡ほどの大型であること、貿易陶磁器や日本各地で生産された国産陶器が多数出土していることから、領主層の居館あるいは、それに付随する名主層の屋敷地であったと考えられます。

物流に関わる倉庫群 (富吉遺跡Ⅲ)

はしらあなれつ

32棟の建物跡群が柱穴列によって区画されています。その立地や井戸がみられないこと、出土遺物が少ないことから居住地ではなく、河川を利用した物流に関わる倉庫や管理棟として、保管や輸送の機能を持っていた施設と考えられます。

埋蔵銭が出土した遺跡 (上湯江遺跡Ⅴ)

鑄造された時期が異なる40種以上の銭が、束でまとめて埋められた状態で出土しています。

鎌倉・室町時代の日本では、中国から輸入した銭が通貨として流通していました。



埋蔵銭の出土の様子